

2013.1.21

日本乗員組合連絡会議

議長 舘野洋彰

## B787 型機の全面運航停止に対する日乗連見解

今般、B787 全面運航停止の発端となった ANA692 便の高松空港へ緊急着陸した重大インシデントについて、重大事故を避けるべく行われた、最寄り空港への緊急着陸や着陸後の緊急脱出等、運航乗務員、客室乗務員、航空管制、空港関係官署の対応は適切なものであった。

当該事例を受け、日米当局が B787 型機の運航を停止して原因究明を開始した事は、重大事故の発生を未然に防止出来た点で評価に値する。一方で、当該便に搭乗されていたお客様はじめ社会全般に対して大きな不安感を与えてしまったことは、航空関係者として重く受け止める事態であると共に、ボストン空港で日本航空同型機において類似事例が発生した段階で、全ての航空関係者は全 B787 運航の見合わせを含む慎重な対応をするべきであったとの反省も必要である。

今般の 2 件のリチウムイオンバッテリー関連を含む電気系統の不具合は、空中火災等の重大事故に繋がりがねないものであり、徹底した原因究明と再発防止が確立される必要がある。

B787 就航以降に生じた一連の不具合に関して、それぞれの事象を個別に検討することなく、安全管理とリスク管理の考え方を基に不安全事故に関与した背景要因を残らず精査し、それらが様々なシステムに与える影響を予測し、事前対応的に対策を講じるべきである。

日乗連は、ICAO (International Civil Aviation Organization : 国際民間航空機関) が規定する SMS (Safety Management System) \*の観点に立脚して、許容出来ないリスクを抱えたままでの運航再開は行われるべきでないと考える。

\*ICAO SMS とは、安全管理のための体系的なアプローチであり、必要な組織体制、責務、方針及び手順を含むもの